

2023（令和5）年度 豊橋創造大学 外部評価に対する所見・対応等

■保健医療学部理学療法学科

外部評価者：愛知県理学療法士会学習局 卒前教育部部長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
(1)入学者の受け入れについて：意見・要望あり 入学者数が多いのは教育に魅力があることだと思われる。しかし僅かではあるが入学定員数を入学者数が上回っており、教育の質を保つためにどのような方策をとっているか教えて下さい。	理学療法学科では定員 60 名に対し、開設当初からの平均入学者数は 64.4 名となっている。クラスを 2 つに分けることでそれぞれに担任をおき、学修及び学生生活、就職活動などについてきめ細やかな指導を行なっている。学修環境については、講義教室は学年全員が同時に受講できる座席数が確保されている。また、実習科目においては 3 つの実習室が用意され、器具も目的に合わせて使用できる数が揃えられている。
(2)カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について：適切である ① 他の養成校と異なり、カリキュラムにおいて教育系の選択科目があるため、これらの科目を履修した卒業生が臨床経験年数を重ねることで臨床実習が可能となることは、勤務先で重宝される可能性が高い。 ② グループ学習とアクティブラーニングを実施することで知識の整理ができる。	① 指定規則の改定に合わせてカリキュラムの改正も行なった。その中で、教育に関する科目を 4 単位選択できるように配置している。学生へは、入学時ガイダンスにてモデルカリキュラムを提示していることから、毎年 1/3 前後の学生が選択している。 ② 各科目とも、積極的にアクティブラーニングを取り入れており、思考力や姿勢・態度、経験を向上させることができ、個々の学生の問題解決能力向上につながっている。
(3)本学の教育活動全般について：適切である ① 特定研修施設と学科の連携により、臨床実習への緊張感が軽減される。 ① 保護者懇談会を実施することで個々の状況を保護者に把握してもらえること、また就職および国家試験までのイメージがしやすくなる。	① 特定研修施設に所属する理学療法士が実習科目に入ることで、臨床で活躍する理学療法士に接する機会を持つことや臨床実習に向けた情報を聞くことができ、効果的な学修が行えていると考えている。 ② 保護者懇談会では学科説明会と学年別懇談会、個別面談を行うことで、1 年生から 4 年生までの流れや各学年における状況を保護者が把握でき、不安の解消にもつながっていることから、学生の学修や生活状況の改善、国家試験や就職活動へも有効に作用していると考えている。

■保健医療学部看護学科

外部評価者：愛知県看護協会 教育センター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
(1)入学者の受入れについて：適切である	意見・要望はないため、現在の取組みを継続する。
(2)カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について：適切である	意見・要望はないため、現在の取組みを継続する。
(3)本学の教育活動全般について：適切である	意見・要望はないため、現在の取組みを継続する。
(4)その他 退学者の要因分析と検討について	看護学科として新たに追加した点検・評価の視点であり、的確な指摘を頂いた。 入学者の学力差が進み、学力の高い学生が一定数いる一方、低い学生も増えていると感じており、学力が低い学生の増加が退学者、留年者の増加の要因と考えている。しかしご指摘のようにコロナウイルス感染症拡大で友人との交流時間は減少していると思われ、これまでは友人との語らいの中で解決できていたことが、その機会がなくなり、問題を一人で抱え込んでいる状況もあったと考えられる。 学生の多様化も感じており、ひとり一人に適した個別対応がより重要と考えている。特に学業不振で退学もしくは留年となる学生が多いため、できるだけ多くの看護職を育成するためにも、学習習慣の獲得と看護師を希望するモチベーションを持ち続けることができるような支援が必要である。4年で卒業ではなく、5年、6年かけて看護基礎教育を学ぶ学生もいると考え、できるだけ多くの学生が看護職として活躍できるよう指導していきたい。 臨地実習施設との連携については非常に大切であると感じており、東三河地域に唯一の大学として、地域の医療機関、看護職との連携を円滑に図ることができるよう計画している。実習施設と良いコミュニケーションを図り学生が看護の楽しさを実感できるような実習指導を心がけたい。また本学の卒業生が中堅となっている実習施設もあり、教員と指導者が円滑に連携を図れるようになってきている。

■経営学部経営学科

外部評価者：豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
(1)入学者の受け入れ：適切である インターンシップの積極的参加や地元からの入学に重きを置くなど、将来、地元就職への意識を高め、現実社会への適応を図っている。今後も、さらに卒業生の社会での活躍(特に地元企業との密着性など)を強調・見える化などにより、入学者へのアプローチに期待したい。	本学は小規模校としての特色を生かすべく、地域の企業や諸組織と緊密に連携した地域密着型大学を志向している。本学科でも、グローバルな視野を持つ卒業生が地元企業を中核とする様々な組織で活躍できるよう支援していきたい。また、その結果としての卒業生の多様な社会的活躍を、積極的に地域社会に伝えるよう努めたい。
(2)カリキュラム内容・学修方法・支援・成果：適切である 地元企業との連携強化を図っており、地域産業発展の一助となっている。今後も、さらにプロジェクトへの参画やスタートアップなどの活動強化に期待したい。大学とは別になる(外部リソース)のかもしれないが国家資格(中小企業診断士'社労士等)取得を目指す、より社会適応力・実践力が高まると思う。	ここ数年、新たに就任した教員が主導する地域企業連携活動(東三河発 SDGs 新商品・サービス企画開発や地域文化産業研究)が付加され、行政連携型が中心だった PBL 活動の幅が拡大してきた。また、本学は、奨励金制度等の形で学生の資格取得を奨励している。中小企業診断士や社会保険労務士については以前講座が存在したものの希望者が少ないことから断念したと聞いている。資格、特に国家資格を含む高度なスキル(技能)を伴うものは、ニーズが限定的であっても学生の経済的自立のために有用である。2025 年度施行の新カリキュラムに合わせ、一斉授業以外の方法での支援が可能か検討したい。
(3)本学の教育活動全般：適切である 少子化の中で、知名度の高い国立大学や私大との競合が激化する中で、地域産業の高いポテンシャルを十分に理解し、地域社会に役立つ実践的な教育をポリシーに掲げながら活動を行っている。今後も、さらに地元企業と地域産業の発展・振興につながる地元密着型の大学としての活動に期待したい。	本学科の募集パフォーマンスは、毎年 50 名前後と低迷している。しかし、競合他大学の募集状況との比較は、現況を 18 歳人口の減少のみに結びつける理解に疑問を投げかける。むしろ少子化は、2030～40 年代により深刻な影響を及ぼすものと推測されている(文科省は、定員充足率は現在の平均 100%超から 2040 年には 81.8%に低下し、大学再編の必要性が高まると指摘している)。私見では、問題の一端は社会科学系学部としては特異な教育のあり方にも存する(e.g.多領域の基礎教育の必修指定とリジッドな評価、高い留年・退学率)。この課題に取り組むため、本学科の教育体系を学生の主体性を尊重しつつ、多様かつ健全な価値観(教養)と高度な専門知識・スキルの修得を強力に支援し、学修意欲のある学生を誰も取り残さない、学生中心のアプローチに改変していきたい。

■大学院健康科学研究科

外部評価機関（外部評価者）：豊橋市民病院及び豊橋市保健所における本学が委嘱した職員

※大学院健康科学研究科の外部評価を実施する「豊橋創造大学大学院健康科学研究科の教育活動に関する協議会」内で実施

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
教育活動（教育課程の編成等）に関して ① 昼夜開講制を堅持している教員の努力は評価できる。【豊橋市民病院】 ② 他大学（豊橋技術科学大学等）との単位認定制度はあるが、企業との連携に関する記述は見当たらない。地場産業・行政・臨床病院との連携をすすめ実践的・専門的プログラムを作成する具体的な動きが必要である。【豊橋市民病院】	① 今後も社会人にとって学びやすい環境を堅持すべく、引き続き努力する。<u>《昨年度指摘事項》</u> ② 研究科としてどのように取り組みができるか、検討する。<u>《昨年度指摘事項》</u>
学生募集（入学者の受け入れ）に関して ① 学生確保のため大学院をアピールする様々な取り組みを行っているが、令和4年が1名のみ入学であった。大学院だけでなく、創造大学全体をアピールし、さらに知名度を上げていく試みは必要ではないか。【豊橋市保健所】 ② 学生の獲得に向け、様々な努力をされており、また学習内容についても興味深いものとなっていると思われるが、入学者の増加に繋がっていない。 ⇒大学院で学ぶことにより、シンプルなメリットを提示できればわかりやすいのではないかと思う。 例えば、職場で〇〇が役に立ったとか、〇〇の困っていることが解決できるとか。【豊橋市保健所】 ③ 公開講座（オープンラボ）の参加人数が少ないことが気になる点である。既に取り組まれているが、大学院の魅力、入学者の確保につながる機会であり、参加意欲が増すようなさらなるプログ	① 大学の知名度アップを目指して、本年度（2023年4月）よりリブランディング事業に取り組み、ユニバーシティ・アイデンティティを明確にするべく、公式ロゴマークやステートメントなどを刷新した。 (https://www.sozo.ac.jp/lp/)。大学はもちろん大学院の知名度アップに繋がる施策についても検討を進めていく。 ② 大学院での学修のメリットを分かりやすく伝えていく方策について考えていく。 ③ オープンラボの内容について、魅力あるプログラムを検討していき。これまでの周知は、基礎となる学部（保健医療学部）の学科（理学療法学科および看護学科）の実習施設ならびに卒業生に案内を送っていた。今後、この

ラムの考案とアピールを検討していただきたい。【豊橋市民病院】 ④ 引き続き定員割れが継続しており、学部生からの入学推進を図る必要があるのではないか。そのためにも学部生に進学する意義が感じられるカリキュラム作成が必要だと考える。基礎科目だけでなく臨床家育成という立場で、臨床病院とコラボレーションしたカリキュラム作成を考えてみてはいかがか。 （広島大学の療法士レジデント制度 https://reha.hiroshima-u.ac.jp/kensyu1.html） 【豊橋市民病院】 ⑤ 生徒が集まらないということであるが、学校の選択の入り口は学校のことを知っているというところから始まると思う。大学、大学院自体の PR が積極的に行われているのか。大学院への進学における強みなどの PR がなされているのか。【豊橋市保健所】	周知方法についても検討する。 ④ 理学療法学科では、学部生に向けて大学院接続科目を 3 科目設定している。今後のカリキュラム改訂に合わせて、大学院への進学を促すようなカリキュラム導入を学部学科と協議して検討していく。 大学院設置基準では、修士課程の目的は「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培う」とある。高度の専門性や卓越した能力を培うための教育プログラムの可能性について、かなりハードルは高いと思うが、広島大学の療法士レジデント制度も参考にして検討したいと思う。 《昨年度指摘事項》 ⑤ 大学の知名度アップを目指して、本年度（2023 年度）よりリブランディング事業に取り組んでいる。大学院の知名度アップに繋がる施策についても検討していきたいと考えている。また、大学院での学修のメリットや意義についても分かりやすく伝えていくべく、Website を中心に改定を検討する。
教育活動全般について ① 令和 3 年度末現在、修了生を対象にしたアンケートでは 77.3% の院生が「本研究科に入学して良かった」と回答している。残りの 22.7% の学生の意見はどのような内容であったか、満足できなかった点を確認し、さらなる質の改善ができればよいと思う。 【豊橋市保健所】 ② 長期履修生制度は、仕事を継続しながらも大学院で学べるので、大変いい制度と思われるが、長期履修では教育訓練給付の経済的援助を受けられないとのこと。 ⇒この点において、何らかの工夫ができればいいのではないか。 【豊橋市保健所】 ③ 身に付けることのできる能力について、誰でも、いつでも、簡単に確認できる方法で公表する必要がある。【豊橋市保健所】	① 「本研究科に入学して良かった」以外の残りの回答（意見）を過去に遡って確認したところ、「（良い悪いの）いずれでもない」および「未回答」であり、「悪かった」という回答ではなかった。また、その理由については記載がなく、入学して良かったと回答しなかった理由は不明であり、アンケート内容を検討し、今後の改善に繋がるような内容に改訂していく。 ② 経済的な支援策については、経営者の判断によるところになるが、長期履修生に対する経済的な支援が可能か、可能な場合の制度設計などについて検討していく。 ③ まずは、大学 Website 上での公表法について工夫する。

④ 修了生を対象としたアンケートが行われているようであるが豊橋創造大学の Web の各種アンケート結果では、大学院健康科学研究科のアンケート結果は見受けられない。結果及び改善の状況を Web ページ上で公表を行うよう努めていただきたい。 【豊橋市保健所】 ⑤ 入学した社会人が授業に出席しやすいよう、社会人が所属する企業と連携できる仕組みがあるとよいと思う。入学生が少ないからこそ可能なことと思うが、．．． 【豊橋市民病院】 ⑥ 大学院教育の意義を再確認すべきである。多様化する修士課程修了者のキャリアパスに応じた活躍状況の可視化を行うことで、知のプロフェッショナルに対する啓蒙を図るべきである。 【豊橋市民病院】 ⑦ 学内だけでなく積極的に学外とのコラボレーションを進めてみてはいかがか。 【豊橋市民病院】 ⑧ プログラム修了後の修了者の状況について公表はされているが生きた声が反映されていない。新規入学者獲得のためにも更なる努力を期待する。 【豊橋市民病院】 ⑨ 長期履修生制度などの制度は良好に機能していそうだが、ウィズコロナの時代に遠隔授業に対応した設備投資が必要である。具体的には図書の配送など図書館遠隔サービスの充実、電子図書数の充実などを考えてはいかがか。 【豊橋市民病院】	④ 大学 Website で公開しているアンケート結果は、大学として実施しているアンケートに限定されており、各部署で実施しているアンケート結果は Website に掲載されていない。本研究科で実施しているアンケート結果の Website 上での結果公表について検討する。 ⑤ どのような連携が可能か検討する。 ⑥ 大学院教育の意義を明確にし、それをわかりやすく提示すべく努力する。現在オープンラボを実施しているので、本研究科専任教員によるセミナー講座を通して、研究科におけるキャリア形成を説明すると共に、大学院で習得できる内容を明確に伝えるように検討していく。《昨年度指摘事項》 ⑦ 大学院として、学外の機関とのコラボレーションの活性化について検討していく。《昨年度指摘事項》 ⑧ 修了者の進路状況など、大学院教育の意義を分かりやすく提示すべく検討していく。《昨年度指摘事項》 ⑨ 図書館サービスに関しては、大学としての管理事項になるが、大学院としてサービスの充実を申し入れていきたいと考えている。
その他 ① 社会人や企業などのニーズに応じた実践的・専門的なプログラムに発展させるための仕組みとして、協議会の設置はあるが、協議会メンバーが限定的であるように思う。地域の企業からのメンバーなど様々な視点での評価が必要。 【豊橋市保健所】 ② 本来の趣旨とはやや異なるかもしれないが、単純に面白い講義	① 協議会のメンバーについては、文部科学省の制度上の制約がある。どこまで拡大できるか、今一度検討する。 ② ご意見の内容は、本研究科としては「健康科学セミナー」がこれに相当

や著名な講師（学内・学外にかかわらず）による講義とか、興味を引くような教育課程の検討はいかがでしょうか。

【豊橋市保健所】

- ③ 双方向&実務家教員による授業が 95%以上であるとのことであつた。

⇒望ましい形とは考えるが、この割合を多少低下させてでも、取得しやすい単位の形を検討し、受講しやすい授業（来学せずに単位取得できる）とすることは難しいのか。【豊橋市保健所】

- ④ 毎年の意見に対して、真摯に対応いただいているが、個人の考えでは限界があり、豊橋市民病院の委員の方々との意見交換ができれば、さらにあらたな考えも出てくるのではないかと思いますので、次回はできれば、集まっての協議会の開催を希望する。【豊橋市保健所】

- ⑤ 昨年度の外部評価における様々な意見・提言等に対し、検討していきたいとの前向きな対応が記載されている。その後、検討の後改善した内容、改善の結果が委員にわかりづらい。今回いただいている対応等の一覧において、継続検討、実施している内容については、記載していただきたい。【豊橋市保健所】

- ⑥ 入学生の獲得に向けて様々な工夫がされている。大学院の魅力やアピールを継続し、独自性を打ち出すような情報発信がなされると良い。【豊橋市民病院】

- ⑦ 2022 年度のオープンラボは、理学療法学領域には相当な参加者があるが、看護学領域のプログラムの参加者が 1 名のみであった。プログラムの周知方法の問題なのか、プログラム内容が対象者の関心等と乖離があるのか、検討する必要があると思う。【豊橋市民病院】

するものと考えている。また、カリキュラムの中で何ができるか、検討してみたいと思う。

- ③ 通学制の大学院修士課程として設置認可が下りているため、基本は通学しての学修となる。ですが、一部の授業は遠隔での対応が可能となっている。

- ④ 基本的には協議会是一堂に会して意見交換する形式が良いと考えている。今年度の開催方式については、アンケートの結果、個別開催となったが、次年度も開催方式についてアンケートを実施していきたい。

- ⑤ ご意見に対する対応などの説明不足があるようで申し訳ありません。分かりやすい説明を心掛けていく。また、今年度の対応について昨年度からの継続事項（昨年度も同様の意見をいただいた事項）に関しては、《昨年度指摘事項》と明示した。

- ⑥ 大学の知名度アップを目指して、本年度（2023 年度）よりリブランディング事業に取り組んでいる。大学院の知名度アップに繋がる施策についても検討していきたいと考えている。また、大学院での学修のメリットや意義についても分かりやすく伝えていくべく、Website を中心に改定を検討する。

- ⑦ オープンラボの内容について、魅力あるプログラムを検討していく。これまでの周知は、基礎となる学部（保健医療学部）の学科（理学療学科および看護学科）の実習施設ならびに卒業生に案内を送っていた。今後、この周知方法についても検討していく。

⑧ 国家資格の取得後に、大学院に進む理由は何かを明確に示し、学部生が入りたいと思うようなカリキュラムの作成が必要と考える。【豊橋市民病院】 ⑨ 海外留学支援制度の利用実績が近年見当たらない。教員の質向上や海外の大学院との協力関係構築のためにも再開すべき。Web等を利用した海外施設とのオンラインによる共同研究等も支援制度の範疇に含めてはいかがか。【豊橋市民病院】	⑧ 大学院教育の意義を明確にし、それをわかりやすく提示すべく努力する。 ⑨ 説明不足で申し訳ありません。「海外留学支援制度」については、その役割や助成は「競争的研究資金制度」に取り込まれる形となっている。こうしたご意見があることは、経営者サイドに伝え、対外的にわかりやすい制度にすべきかを含めて検討する。<u>《昨年度指摘事項》</u>
---	--